

令和元年佐賀豪雨 現地調査

参加者

M1 工藤 啓幹 (Kudo Hirotooshi)

2019年10月24日、25日の2日間、令和元年佐賀豪雨で被災を受けた佐賀県内のため池の現地調査を行った。以下にその詳細を報告する。

## 1. 調査概要

2019年8月27日から29日にかけて発生した令和元年佐賀豪雨により、佐賀県内の複数のため池が被災した。今回の調査では、小城市役所の協力のもと小城市内の被災ため池の視察及び決壊したため池の堤体調査を実施した。また、佐賀県内の被災ため池の調査も実施した。

## 2. 現地調査の詳細

佐賀豪雨により、小城市ではため池7か所が被災した。被災したため池7か所のうち1か所が決壊、6か所が法面崩壊や土砂流入によるものであった。今回の調査では、小城市を中心に決壊したため池堤体からの試料採取及び被災したため池の被災状況の調査を行った。

### 2.1 堤体調査

決壊した西分第1ため池（写真-1、写真-2）で不攪乱試料のサンプリング及び簡易貫入試験を実施。堤高7.05mで比較的規模の大きなため池。

### 2.2 被災状況の調査

小城市内の被災したため池6か所及び佐賀県内の被災ため池を現地踏査した。

## 感想

今回、初めて被災したため池の調査に同行した。実際に被災したため池を調査することで、改めてため池防災の重要性を知ることができた。また、実際に堤体から不攪乱状態でのサンプリングを行った。実際にサンプリングを行って、不攪乱試料の採取の難しさを知った。今回得た知見を今後自身の研究に活かしていきたい。

## 謝辞

小城市役所農村整備課の大久保様、災害対応でお忙しい中、貴重な時間を割いて現場の案内に加え、学生の質問にも親切に答えてくださいました。また、調査にご同行いただいた大阪工業大学の藤本先生、調査での親切な指導ありがとうございました。今回の調査で多くの経験をする事ができました。深く御礼申し上げます。また機会がありましたらよろしくお願いたします。



写真-1 貯水池法面側



写真-2 下流法面側